

青木英二区長への公開質問状

目黒区長選挙公報「なんとしても共産の手から守ります」について

私たちは目黒に住む区民として、多様性を否定し、少数派を排除し、ヘイト意識を煽るような区長は、どなたであっても、認めるわけにはいきません。その点から、青木区長に選挙公報に掲載した表現の真意を伺いたいと思います。

先日行われた目黒区長選挙では、青木英二候補の選挙公報最上段に「なんとしても共産の手から守ります」との見出しがありました。この表現に大きな違和感を抱くと同時に、4期も務めてきた自治体・首長経験者が使う表現だろうかと思われ、怒りや情けなさを感じました。

1. この文章の意味を伺いたいと思います。

- ① 「なんとしても共産の手から守ります」という相手候補者は、具体的に誰なのですか？
明確にしてください。
- ② また、何を「共産の手から守る」のですか？
今回の区長選での立候補者は、青木英二候補のほか、無所属で立憲民主党・共産党・社民党・生活者ネット推薦の山本ひろこ候補、日本維新の会公認のたぶち正文候補の3人です。「共産の手から守る」という表現は、どの候補に当てたものですか？

2. 残念なことに、国政の場では忖度や改ざん、言い逃れがまかり通り、ウェブサイトを中心にヘイトスピーチや差別発言が横行する社会が進行しています。そこで、他者にレッテルを貼り差別心を焼き付けるような言葉を使うべきではないと「ヘイト抑止条例」をつくる自治体が増えている現状についての考えを聞かせてください。

- ① 青木英二候補は4期も区長を務めた現職であり、区長は目黒区民すべての代表のはずです。従って「無所属」を標榜しておられたように、当然、特定の会派に偏らない公平・公正な対応が求められるわけです。「共産の手から守る」という表現は、どうみても、「ヘイト」意識をあおるものだと思いますが、どうお考えですか？
- ② 5期目の区長として今後の方針を伺いたいのですが、区民の差別意識や恐怖心をあおる「ヘイト発言やヘイト対応」に対し、今後、目黒区はどのような対応をしていくつもりですか？

連休明けの5月11日までに、ぜひ、青木区長からの回答をお願いします。

2020年4月27日

CAN(CheckActionNetwork)めぐろ